

# 離島における健康づくりを目的とした ターゲット化介入プログラムの開発および評価 — 離島住民を対象にして —

## The Development and Evaluation of Targeted Health Promotion Program: Focusing on the Island Community

前泊 成人 (Naruto Maedomari) 指導: 竹中 晃二

### 【1章 序論】

**背景:** 最近、離島の住民において生活習慣病有病率が急激に上昇し、この増加の程度は都市部住民のそれを大きく上回っている。生活習慣病有病率が急激に増加する背景には、基本的に、身体活動量の減少や油脂類中心の食生活化があげられるが、離島という地域特性や風土など様々な要因が相乗的に有病率に影響を与えている。そのため、離島という特殊な地域を対象とした健康づくりは、単に一律の情報提供を行うだけではなく、都市部とは異なる離島特有の背景や特徴、ニーズを把握した上で、働きかけを執り行う必要がある。

本研究は、鹿児島県T島I町を対象とし、事前調査を丹念に行い、その内容を活かした健康づくり介入プログラムの開発、および効果の検証を行った。具体的には、I町の住民を対象に生活習慣病予防を目的として、1) 健康診査の実施率向上、および2) 健康意識の向上・健康行動の促進を目指したプログラム開発を行った。

**対象地域:** I町は長寿世界記録1位の人物を2名輩出し、「健康・長寿」の町として全国にその名を馳せた地域である。しかし近年、町内健康診断において体格指数(体重度)111%以上の者が全人口の約半数(46.8%。鹿児島県全体では34.7%, 2007年)を占めるまでになり、住民に急激な健康被害が生じている。本研究では、効果的なポピュレーションアプローチとしてI町の全成人を対象とした。

**研究概用:** 1) 事前調査FGIの実施、2) 対象者のターゲット化およびセグメント化、3) 合目的行為理論、健康信念モデル、ソーシャルマーケティングを基としたデリバリーチャンネルの検討、および4) プロセス評価を含むプログラム全体の包括的評価、の4点を介入プログラムに盛り込むことで、プログラムを開発・実行し、最終評価を行った。

### 【2章 研究Ⅰ: 事前調査】

研究Ⅰでは、生活習慣病予防に向けた検出および予防行動の促進介入プログラムの開発・実行を行うために、事前調査としてフォーカスグループインタビューを複数実施し、I町住民の背景や特徴を明確にし、対象とすべき下位集団およびプログラムに用いる介入ツールの内容を決定した。その結果、対象者の背景として、様々な行事や飲酒の機会

が多いことなど、健康な食生活を送ることが不十分であることがわかった。加えて、労働と身体活動における違いについて認識が不足していたり、「早世」に対する危機意識が弱いなど過去の「長寿イメージ」で過信している状態にあることがわかった。以上の検討より、同町で対象とすべき下位集団を、「公務員」、「自営業(農業従事者)」、「主婦」の3集団に分け、各セグメントに特化した働きかけを行うことで効果を高めるべくプログラムの開発を行った。

### 【3章 研究Ⅱ: 検出行動促進介入プログラム】

研究2では、I町における健康診査の実施率向上を目指し、特定健康診査受診対象者の検出行動を促進させるポスター介入プログラムを開発し、その効果を検証した。1ヵ月にわたるポスター貼付とリーフレット配布、また他の情報提供を行った結果、アウトカム評価として、2008年度度の特定健康診査実施率は、7月の厚生連健康診査終了時に28.6%の値を示した。I町における2007年度の健康診査受診率は年間で26.2%であり、2008年度は厚生連健康診査終了の時点で昨年を2.4ポイントも上回る結果となり、その後の健康診査受診数を考慮にいれると2007年度を大きく上回った。

### 【4章 研究Ⅲ: 予防行動促進介入プログラム】

研究3では、研究1より得られた知見を基に、住民の予防行動推進を目指し、ポスター介入プログラムを開発し、その効果を検証した。「全住民」、「公務員」、「自営業」、「主婦」の各下位集団向けに3ヵ月間の介入プログラムを実施した結果、無作為抽出した対象住民103人はプログラムの実施前において健康行動や意識は高かったものの、健康行動の実践度や認識がさらに強まった。

### 【5章 総合論議】

本研究では、主に紙媒体による介入プログラムが、離島地域において、検出行動の向上や健康行動を促進させ、健康意識の改善に効果を示すことを明らかにした。加えて、対象者のターゲット化や事前調査およびプロセス評価を用いることで効果的な働きかけが行えることを示唆した。